

## P1-069

### 肢体不自由児の養育者が親子分離型療育キャンプに対して抱く意見の質的分析

菊地 謙<sup>1</sup>、菊地 真実<sup>2</sup>、新田 収<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東京都立大学大学院人間健康科学研究科、

<sup>2</sup> 帝京平成大学薬学部薬学科

---

#### 【背景】

肢体不自由を有する子どもの社会参加経験は家族に依存することが知られている。我々は親子分離型療育キャンプ（以下、キャンプ）に着目し、これまでその効果検証を確認してきた。本研究では肢体不自由児の養育者が親子分離型療育キャンプ（以下、キャンプ）に対して抱く意見に関するアンケートから、親子分離経験の質的な効果検証を目的とした。

#### 【方法】

養育者 28 人（対象児平均年齢  $12.6 \pm 3.1$  歳，9 - 18 歳）を対象にキャンプを終えた後にアンケート調査を行った。養育者はアンケート調査に子どもをキャンプに参加させた理由，そして子どもがキャンプに参加したことの感想を記述した。記述内容をカテゴリー化したうえで質的分析を実施した。

#### 【結果】

キャンプへの参加理由については，子どもの成長を望む気持ちだけでなく養育者のレスパイトなども含まれていた。参加後の感想では，参加した子どもたちに“楽しさ”と“不安”が入り混じっていることが記述されていたほか，養育者は子どもの成長を感じていることが分かった。また，キャンプには大学生などのボランティア（キャンプ内ではリーダーと呼ばれる）が参加しており，ボランティアリーダーへの感謝の気持ちも記述されていた。

#### 【結論】

親子分離経験は肢体不自由児にとって数少ない機会であり，参加することによる子ども自身と養育者，さらにはボランティアにとってのメリットが多くあると示された。同時に昨今の新型コロナウイルスの蔓延による肢体不自由児の成長を促す機会の不足は，喫緊の問題であることも示唆された。